

「コンクリート構造診断士研修報告書」
執筆要領 (ver.1.4)

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会

1. 本執筆要領の対象

本執筆要領は、コンクリート構造診断士の研修報告書（2 ページ）を対象とする。

2. 原稿の体裁

原稿の形式は、ワードプロセッサ等で作成した A4 版 2 ページ（45 字×40 行）に図・表・写真が適切にレイアウトされた電子ファイルを、Acrobat Distiller（アドビシステムズ社:AdobeAcrobat に付属）でフォント埋め込みを使用して変換した PDF（Portable Document Format）ファイルとする。PDF ファイル名は登録番号 8 桁とする。なお、PDF ファイルにはパスワードは付けないでください。

3. 題目と著者名

題目は原稿の内容を適切に表現したものとし、原稿に 1 行で収まるようにすること。1 行目に左寄せでテーマ区分を□で囲んで記すとともに、右寄せで登録番号、著者名を記すこと。著者は研修者本人の単名とする。テーマ区分は以下の 4. (1)を参照のこと。

4. 研修報告書の内容および執筆に際しての留意事項

(1) 研修報告書には、コンクリート構造診断士の業務として相応しいと考えられる業務経験を記述することを原則とする。コンクリート診断士として相応しい業務とは、コンクリート構造物の診断・補修・補強・維持管理に関する内容の業務である。業務経験の時期はコンクリート構造診断士の資格取得以前であってもよい。なお、コンクリート構造診断士として適当な業務に携わる機会が得られなかった研修者は、診断・補修技術に関した、当工学会主催のシンポジウム、講習会や学協会主催の年次大会などの参加報告、技術論文等の文献調査報告を調査報告としてもよい。したがって、研修報告書は次のテーマから一つ選んで執筆すること。

テーマ

a) コンクリート構造物の診断・補修・補強・維持管理に関する実務経験

b) 診断・補修技術に関する講習会、学会等の技術内容に関する参加・調査報告

(2) 報告する業務経験については「はじめに」等に、執筆者個人で行った業務か、グループで行った業務かを明記すること。後者の場合には、できるだけ執筆者が中心となって行った業務について記述することとする。また、必ず、あなたの役割、立場を明記すること。

- (3) 研修報告書には図や写真を利用し、できるだけ分かり易く記述すること。
- (4) 研修報告書の記述にあたっては守秘義務，著作権等に十分配慮すること。また構造物の固有名詞など，対象構造物の特定につながる情報は記載しないこと。宣伝の意図がきわめて強い内容は避けること。
- (5) 提出いただいた研修報告書の内容について査読を行い，場合によっては修正依頼をすることがある。
- (6) 広く一般の技術者にも参考となる研修報告書については、プレストレストコンクリート誌・診断士レポートに原稿の執筆を依頼させていただく場合があります。

5. 原稿の書式

原稿の書式はコンクリート構造診断士レポートフォーマットを参照すること。

6. その他

研修報告書の執筆に際し，不明な点は下記に問い合わせること。

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会（担当：石川）
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-6
TEL: 03-3260-2521 FAX: 03-3235-3370
E-mail : ishikawa@jpci.or.jp